

## 平成28年9月定例会 一般質問（概要）

平成28年12月15日

質問者：岩木 均 議員



### 〈 岩木 議員 〉

大阪維新の会大阪府議会議員団の岩木均でございます。

一般質問の機会をいただきましたので、発言通告に従い、順次、質問をさせていただきます。

まずは、万博の誘致について伺います。

### 1 環境に優しいグリーンパワーがつくる世界都市・大阪について

#### 1-1 万博誘致の状況について

### 〈 岩木 議員 〉

2025年の万国博覧会に、日本国内で大阪が手を挙げ、今まさに大阪誘致に向けて準備が進んでいます。今月2日には超党派の国会議員による「大阪万国博覧会

を実現する国会議員連盟」が発足し、国会内で設立総会を開きました。

自民・民進・公明・日本維新の会の衆参27名が呼びかけ人に名を連ね、二階 俊博 自民党幹事長が議連会長に、我々 日本維新の会 馬場 伸幸 幹事長が議連幹事長に就任され、当日、松井 一郎 大阪府知事も出席し協力を求めたとのことでした。

テーマは、世界中の人々が健康にかかる様々な課題を克服し、より良い生活を送ることができる様にとのことで、人類の健康と長寿への挑戦ということでもあります。万博の理念である誰もが参加できることを踏まえて、民間投資を呼び込むアイデアを募るなど、新たな発想や手法による多様な民間資金の活用も模索していかなければいけません。

健康に関する産業は幅広く、大阪にはその関係、関連機関が多数あります。大阪では、国際文化公園都市の彩都や北大阪健康医療都市の健都などで、健康をキーワードとしたライフサイエンス産業の拠点づくりなども現在進行形で始まっています。

しかしながらフランスのパリが、国際博覧会誘致に向けて大阪より先に立候補しました。

パリは強力なライバルではありますが、東京オリンピック後の経済対策、大阪を世界へ発信できる良い機会だと思います。

知事は「相手に不足はない」と語っておられますが、強力なライバルであるパリに打ち勝ち、大阪誘致を実現するための知事の決意をお伺いします。

#### 〈 知事 答弁 〉

議員ご指摘のとおり、フランス・パリは過去に多くの開催実績があり、非常に強敵であると認識しております。

我々がテーマとして掲げる「健康・長寿」は、世界共通の課題であり、人々の関心も高い。このテーマを掲げ、参加体験型の万博を提案することで、十分対抗できると確信しております。

また、今月16日から、国の「2025国際博覧会検討会」が設置されます。私自身も参画し、先般国に提出した府の基本構想をさらにレベルアップさせることでフランスに打ち勝つ内容としていくことが重要と考えております。

あわせて、官民共同での誘致活動を展開していくことが必要です。現在、経済界や関西広域連合とともに、誘致委員会の設立に向け取組みを進めているところです。今後、オールジャパン体制で万博誘致をめざすこととなるが、私も地元の長として、できることを全力で取り組んでまいります。

#### 〈 岩木 議員 〉

ぜひ我々も一緒に頑張っていきたいと思っております。

次に観光都市大阪についてであります。

## 1-2 観光都市大阪について

### 〈 岩木 議員 〉

関西国際空港の国際線を利用する外国人数は、平成27年に開港以来初めて年間1,000万人を超え、本年平成28年には1～10月累計の外国人旅客数がすでに1,000万人を超えており、過去最高だった昨年を上回っています。また、2,000万人もの外国人旅行者が日本に来られているとのことであります。しかし、日本第二の都市である大阪の世界の中での存在感はまだまだ薄いと言わざるを得ません。

世界の都市総合力ランキング2016では、42都市中22位、アジアのなかでは7位とのことであります。

大阪を真の観光都市としていくには、ミナミ・キタを中心とする中国人をはじめとするアジアの人たちの爆買いだけに頼るのではなく、もっともっと大阪人自らが地元愛を強くし、地元のまちをはじめ大阪の名所に自ら足を運び、何気なく知っている地元の観光資源を再発見し、外国人旅行者に大阪の魅力を知ってもらう必要があると考えています。

そして、大阪の都市としての魅力を向上させることにより、人・モノ・お金が集まり、物流も起こる。その結果、当然まちが活性化していくと考えます。

先月、府と市の戦略として、大阪都市魅力創造戦略2020が策定されたが、今後の府の観光都市へ向けた戦略について府民文化部長にお伺いします。

### 〈 府民文化部長 答弁 〉

このたび策定した大阪都市魅力創造戦略2020では、大阪の目指すべき都市像の1つとして「世界に誇れる 自慢の都市」を掲げております。

これまでも、水都大阪にふさわしい水辺の空間の魅力向上や、御堂筋を活用したF1走行、リオデジャネイロオリンピックのメダリストによるリレーパフォーマンスといった話題性に富んだイベントを実施するとともに、万博記念公園の太陽の塔の改修前の最後の内覧会など、国内外に注目される取組みを行ってきたところです。

今後は、都心部における観光魅力のさらなる充実を図るとともに、府内各地にある多彩な魅力に磨きをかけ、府域全域への誘客にもつなげていきます。

こうした取組みにより、観光のみならず文化、スポーツなど、様々な角度から大阪の魅力を高めることで、交流人口の拡大、消費喚起・投資拡大、まちの活性化を図り、より一層都市魅力が向上するという、持続性のある好循環に結びつけてまいります。

## 1-3 日本庭園の現状について

### 〈 岩木 議員 〉

視点を改めて日本庭園の現状と今後の方策についてお伺いしたいと思います。  
1970年、日本で初めての万博が大阪で開催されたことはご承知の通りであります。現在、その跡地は万博公園になっています。

当時3月15日から9月13日までの183日間、「人類の進歩と調和」をテーマとして、目標来場者数を大幅に上回る世界中から約6,400万人の方々がお越しいただき、参加国も過去最高の77か国でありました。

万博当時、政府は国の威信をかけて日本庭園を造ったと聞いています。その面積は26ヘクタール。東西に1300m、南北に200m。園路は5,000m。蛍も生息している水の流れが1,000m。樹木は値段がつけられない銘木を含めて11万7,000本。また、庭園の骨格となる石材は、岐阜や高知など、全国各地から集めた自然の石が7600tありました。

万博公園の日本庭園は、上代・中世・近世・現代の4つの時代を表現しています。



平安時代の寝殿造りの庭を表現、中世・室町時代の枯山水などを表現、江戸時代の大名庭園、池泉（ちせん）回遊式を表現などがあります。

西から東へ、水の流れとともに庭園をみていくと、当時のテーマであった「人類の進歩と調和」を体験できる様になっているとのこと。

日本庭園は、作庭する、（つくる）が4分、守りの（維持管理）が6分と聞きます。日本庭園が造られて46年が経過しましたが、四季折々の美しさ、自然の息吹を感じます。春の桜から、夏のハス、秋の紅葉、冬の雪景色に至るまで見所が満載であり、鳥のさえずり・風に木々が揺れる音など五感で楽しむことができます。

寝殿造りや枯山水、大名庭園など日本庭園様式のすべてを1ヶ所で見ることができるところは、世界中でここしかありません。

世界に誇れる日本庭園の現状について、府民文化部長にお伺いします。



#### 〈 府民文化部長 答弁 〉

万博記念公園の日本庭園は、議員お示しのとおり、作庭当時の造園技術の粋を集めて造られた我が国を代表する庭園であり、太陽の塔と並ぶ70年大阪万博のレガシーとして、世界に誇れる貴重な財産と考えております。

これまで、そのすぐれた景観や特徴を守るため、高い水準の庭園管理に努めるとともに、先日まで実施していた「紅葉（もみじ）祭り」や夏に開園時間を延長して行っている「蛍の夕べ」など、四季のうつろいに応じた様々な催しなどを行って

るところです。

入場者数についても、平成27年度では年間約23万人であったが、今年度は現時点で既に約22万人の方々にお越し頂いております。

#### 1-4 日本庭園のリニューアル・利用活性化について

〈岩木 議員〉

アメリカの庭園雑誌が選ぶトップ20に万博跡地の日本庭園は、ランクインもしていません。

1位は島根県にある足立美術館であり、JR安来（やすぎ）駅から送迎バスで20分もかかります。足立美術館は交通の便も良くありません。

私も2～3度足立美術館に行きましたが、海外の方をはじめ観光客がわざわざ訪れていました。当時、私なりにこの日本庭園が世界に充分通用するだろうと思いましたが。

しかしながら、そもそも大阪を紹介するガイドブックに、万博公園自体が少ししか掲載されていません。世界中だけではなく、日本国内の知名度もまだまだ低いのが実態です。

この国際博覧会跡地の万博公園、このような素晴らしい庭園があることが地域の誇りになることが大事なことであります。

今、千里の住民に聞いても万博公園、日本庭園も緑地があるだけという意識の人が多く見受けられます。地元の人、大阪の人が万博公園、日本庭園を愛し興味を持たないことには、外国人の気を引くことはありません。すなわち日本の観光地に外国人が訪れるのは地元、大阪の人、自らがその場所にて歴史・伝統・文化を体現すること、好きになることが重要であります。

本来、国際博覧会跡地の庭園というのは、貴重な文化遺産にもなる、府民の誇りと愛情がなければなりません。あまりにももったいないと思います。

グリーンパワーでリニューアル大阪。緑が増えることで、快適な環境へ、そこに人が集まることで、オフィス・住宅・店ができる。不動産価値が上がる。そして、大阪の都市格がランクアップする。と私は思っています。

以前の一般質問で、シンガポールが緑を活用して、世界都市に成長していると話をした。みどりを利用してまちの資産価値を向上させたことは周知の事実です。万博公園の資産価値は概算ではあるが3,000億円といわれています。これが1%上がれば30億円、価値が上がります。それは大阪府に大いに貢献することです。

昨年11月グランドオープンしたEXPOCITYは、隣接する市立吹田サッカースタジアムを本拠地にするJリーグガンバ大阪とも連携し、目標の1.4倍を達成し、来場者数は2,400万人、すごい数であります。民間は頑張っています。





日本庭園の現地を今回2度、視察して思いましたが、日本庭園はモノレールの駅から一番遠いところにあります。自動車でも入り口が分かりにくく、通り過ぎる可能性もあります。有料施設であることから、フェンスで囲まれていることは仕方ないとしても、入り口付近は、人を呼び込もうという雰囲気はありません。EXPOCITYや市立吹田サッカースタジアムが開設して周辺エリアの雰囲気が変わっただけに、余計にギャップを感じます。

また博覧会の時、世界のVIPを接客した茶室は「千里庵」「万里庵」「汎庵」と3つもあります。この活用も不十分であり、映画ロケ地や貸会場などにもっと活用すべきだと思います。更には民間活力を大幅に導入すべきであります。



さらにお茶のイベントがあっても、日本庭園の入り口から奥まで徒歩で行かなくてはならず、工夫が必要と思います。また、外国語の表示・案内も御覧の通り分かりにくく、数も不足しているのは明らかです。

利用者目線、国際的な目線が明らかに足りなさ過ぎます。

大阪府に移管されて3年が過ぎました。移管準備期間も含めると約5年になります。

目線を高くリニューアル、活用、活性化するように取り組むべきだと思いますが、いかがでしょうか。府民文化部長に伺います。



### 〈 府民文化部長 答弁 〉

ご指摘のとおり、多くの方々が訪れていただくためには、万博記念公園の日本庭園が持つポテンシャルをより活かしていくことが重要であり、そのためには、施設の改善や情報発信に、これまで以上に取り組んでいくことが必要であると考えております。

まず、施設の改善については、広大な庭園内での見どころを明確にするため、景観の優れた場所8ヶ所を「八景」と名うち、重点的に整備を行うとともに、その八景を楽しみながら効率的に回れるモデルコースを設定してまいります。

あわせて、園内の多言語表記のサインの充実を図るとともに、日本庭園内においては、その作庭意図とストーリーをご理解いただくような解説板の拡充も図ることとしております。

情報発信については、大阪府が承継して以降、外国人旅行者向けの無料情報誌に4ヶ国語で施設紹介記事を掲載するとともに、デジタル媒体でも配信しています。

また、大阪観光局とも連携して、在関西の総領事館の皆様や、海外旅行業関係者の商談会の視察受入などにも取り組んでまいりました。

今後、施設の充実、改善と併せ、万博記念公園の日本庭園が、世界第一級の観光スポットとして広く認知され、多くの方々が訪れるよう、国内外への積極的な情報発信、PRに努めるとともに、太陽の塔や周辺の商業施設との連携を図りながら、より活性化に努めてまいります。

### 1-5 大阪の魅力を高めるみどりについて

#### 〈 岩木 議員 〉

話は戻りますが、2025年大阪に万博の誘致について。

冒頭にお伺いしたように強敵はありますが、もし、決定すれば、世界中の注目が大阪に、そして関西各地にある魅力ある地へ観光客が押し寄せることとなるでしょう。

その際には、現在の会場、夢洲とともに、1970年に国際博覧会を開催してから50年目を迎える万博記念公園の魅力、日本庭園の美しさのアピールも非常に重要だと強く思います。

なぜならば、外国の方が和食と同じくらい興味、関心が高いのが日本の文化、芸術であり、その全てが日本庭園にはあります。そして、大阪には、わざわざ一から造らなくても、非常に完成度の高いものが現存しているのです。

今回調べて分かりましたが、田治六郎をはじめ当時の我が国の錚々たるメンバー、先人の技術、知識、アイデア、想いなどが詰まっている素晴らしい日本庭園を現在の我々がきちんと維持し、そして次世代につなげていくべきだと確信しています。世界に通用する発信力があると思います。

我々は未来への責任があり、子ども達、未来の大阪の為に果たすべきことはやらなくてならないのです。

この2つの万博のあとを、一過性のものとするのではなく、世界に誇る財産とし

て有効活用し、大阪の魅力を高めていくことが重要と考えています。

この万博公園のみどりの資源にもあてはまることですが、私は、これまでも「グリーンパワー」が重要であると申し上げてきました。みどりを育て、そして後世に伝えていく力、みどりを活かして都市の魅力を向上させ、発信する力、そして魅力あるみどりに使ってにぎわいを作り出す力など、さまざまなグリーンパワーを充実させていくことで、大阪の魅力を一層高めることが可能となるのです。

近年は民間においても、グランフロント大阪や新梅田シティなどふんだんにみどりを取り入れた魅力ある施設も出て来ており、民間のグリーンパワーも高まっています。

万博公園の日本庭園など、今ある大阪のみどりの資源を活用し、発信していくことはむろんだが、府としては、2025年の万博誘致も見据え、今高まってきている民間のグリーンパワーを結集するなど、都市のみどりを創出し、大阪の街の魅力を高めていくことが重要であると考えますが、知事の認識をお伺いしたいと思います。



#### 〈 知事 答弁 〉

都市のみどりは、良好な景観の形成、やすらぎの場の提供、ヒートアイランド現象の緩和などの多面的な機能を有しており、まちの魅力を高め、賑わいを創出するためのツールとして重要であると認識しております。

こうした観点から、これまで、中之島にぎわいの森づくりや、みどりの風促進区域でのみどりの軸線づくりなどを進めてまいりました。また、今年度より、民間による魅力あるみどりづくりを核として、さらに企業や住民が周辺街区等のみどりを広げていくための取り組みを進めているところでもあります。

今後とも、旺盛な民間の取り組みと連携し、大阪の顔となる うめきた二期の全面みどり化をはじめ、万博記念公園日本庭園の更なる魅力向上等、内外に発信できる良質なみどりづくりなどを進め、2025年の万博開催にふさわしい大阪のまちの魅力を高めてまいります。



## 〈 岩木 議員 〉

私は今回も含め一般質問において、3回みどりに関する質問をしています。みどりに対する継続性、連続性。維持して使っていく大切さ。今後、知事のみどりの発信に大いに期待しています。

## 2 おおさか東線について

### 2-1 おおさか東線の全線開業について

#### 〈 岩木 議員 〉

本日は、ここに地元の皆様方にもおいでいただいておりますが、私の地元、平野区において、話題に出るのが、おおさか東線と阪和貨物線廃線後の跡地の有効利用であります。跡地利用については、今後も地域の声をお伺いしながら対応していきたいと思っております。

本日は、おおさか東線についてお伺いさせていただきます。

おおさか東線は、JR新大阪駅を起点に、大和路線の久宝寺駅に至るまでの全区間約20.3km、設置駅数14駅の大阪東部を南北に走る新路線である。

大阪東部地域では大阪の都心部に近いという利点もあり、沿線地域の活気溢れるまちづくりの促進と、関西圏のポテンシャルをより一層向上させる幹線鉄道として、大きく期待されております。

既に平成20年3月には、南区間である放出駅から久宝寺駅までの約9.2kmが先行開業しており、残る北区間、新大阪駅から放出駅

までの約11.1kmについては、平成30年度末の供用を目途に取り組んでいると聞いております。

現時点で開業まで既に2年半を切っていますが、全線開業に向けた見通しを都市整備部長にお伺いします。

#### 〈 都市整備部長 答弁 〉

おおさか東線のうち、新大阪駅から放出駅までの区間については、現在、高架橋などの土木工事が最盛期を迎えており、今月3日には、吹田市域において、東海道本線を跨ぐ橋りょうの架設を完了したところ。また、レールを敷設する工事や駅舎の建築工事の一部にも着手しております。

とりわけ、営業中の学研都市線と並走する鳴野駅から放出駅までの間においては、

おおさか東線 鉄道路線図



数回に分けて線路切換を行う必要があり、これが事業全体の工程上の鍵となるが、今年の切換は、予定どおり4月と10月に実施したところです。

このように、開業に向け着実に工事が進められており、今後とも、事業主体である大阪外環状鉄道株式会社をはじめ、関係者と連携し、平成30年度末の全線開業に向けて取り組んでまいります。

## 2-2 おおさか東線の新駅開業について

### 〈 岩木 議員 〉

平成30年度末の全線開業に向けて、引き続き、しっかりと取り組んでいただきたい。

ところで、開業済の南区間の中で、JR長瀬と新加美間は、両駅の距離が長く、不便であることから、私の地元、大阪市平野区と東大阪市の市境に、両市の負担により新しく駅が平成30年春の開業を目標に建設されています。

特に、地元が熱望して実現した経過もあり、開業に向け、地元は非常に大きな期待を寄せているところです。新駅開業に向けた見通しを都市整備部長にお伺いいたします。

### 〈 都市整備部長 答弁 〉

議員お示しの新駅については、事業進捗にあたって重要な要素となる用地買収を完了した後、平成27年9月末に着工し、既に、高架駅の柱の部分の工事を終えております。現在、プラットホームなどの土木構造物を構築しているところです。

今後、平成29年春頃から、駅舎やコンコースといった建築工事や、機械・電気などの設備工事に着手する予定としております。

引き続き、大阪外環状鉄道株式会社などに対し、平成30年春の新駅開業に向けた、着実な事業推進を働きかけてまいります。

### 〈 岩木 議員 〉

このおおさか東線は、昭和30年から今日にかけて、約60年間、計画・調査・話し合い・説明・工事など度重なる困難と紆余曲折を繰り返しながら、多くの方々が携わり汗をかき、知恵を出し、行動を起こし、進めてこられた。全線開業は、私の前任者で永きにわたり大阪府議会に籍をおかれ、大阪の発展に尽力された吉村鉄雄先生の悲願でもあります。

当時、吉村先生の秘書を務めていた時代から、地元の加美は言うまでもなく、東大阪の高井田や永和の住民説明会などにも吉村先生のお供として参加した事や、永年にわたりこの鉄道の推進議連の会長であった塩川先生の布施の事務所、南森町にあった大阪外環状鉄道株式会社には何度も足を運んだことが昨日のように鮮やかに思い出されます。

どうかこの鉄道の完成を夢に見た先人のご苦勞と志と氣概と情熱をお汲みいただき、必ず2年後、平成30年度末の全線開業を確実に実行されることを祈念して、

私の質問を終えさせていただきます。  
ご清聴ありがとうございました。

